

一般質問

一般質問とは、市の一般事務や市が抱える課題等について市長などにたずねるもので、**9月定例会では19人の議員が一般質問を行いました。**
ここでは広報委員会で抜粋し、事項別に整理した一部の内容を掲載しています。

一般質問の全文は、11月下旬作成予定の本会議録を図書館や鎌倉市議会ホームページ内「会議録検索システム」をご覧ください。

西岡 幸子	「市民の健康サポートについて」
山田 直人	「地上デジタル放送の対応について」「スクール・ニューディールの推進について」
前川 綾子	「小中一貫・連携教育について」「みらいふる鎌倉の支援について」
渡邊昌一郎	「かまくら教育プランについて」「野村総合研究所跡地利用について」
千 一	「海岸にある3ヶ所のトイレまでの砂浜のバリアフリールートの確保について」「小町通り商店街のバリアフリー化の取り組みについて」「鎌倉の寺社でのバリアフリー対応について」「御成交差点から寿福寺・英勝寺の前を通り扇ガ谷ガード下までの道路状況について（路面の荒れ、側溝のふたかけ等）」「青信号でどのような歩行者でもわたれるための時間延長について」「姉妹都市との要介護者に対する災害協定について」「災害時の避難所の天井の落下防止について」
早稲田 夕季	「まちづくりについて」
中澤 克之	「ひとり親家庭について」「児童虐待について」「防災と安全について」
池田 実	「深沢のまちづくりの推進状況について」「鎌倉市の農業政策について」「職員の元気回復について」
渡辺 隆	「緑保全・文化財保護と土地評価について」
納所 輝次	「この4年間の市政運営について」
太田 治代	「新型インフルエンザ流行時の対策」
高野 洋一	「岩瀬下関青少年広場の保全について」
岡田 和則	「新型インフルエンザ対策について」「服務環境について」○職員公益通報 ○職員の賞罰等について
三宅 真里	「保育について」○今後の保育計画○待機児童解消○入所要件の見直し○給食○耐震化
石川 寿美	「コミュニティ交通の推進」「広報かまくらの配布もれ問題」
安川 健人	「武家の古都・鎌倉」世界遺産登録に向けての進捗状況について」「町ぐるみの子育てについて」
吉岡 和江	「災害対策について」
飯野 眞毅	「行財政改革について」「海の家」について」
長嶋 電弘	「子供達の携帯電話の利用について」「電磁波について」「総合的な人事見直しについて」

コミュニティ交通の推進について

コミュニティ交通の推進について、次のような視点から質問が行われました。

【オムニバスタウン計画】

質問：高齢化が進む本市では、高齢者の足として公共交通の整備が急務である。

平成十年に策定された鎌倉市交通マスタープランに基づき、地域交通として**※オムニバスタウン計画**を実施し、ミニバスの導入を進めているが、未導入地区はあるのか。

部長：ミニバスが導入されていない地域は、大町地区、二階堂・浄明寺地区及び腰越・津地区の御所ヶ丘の一

部並びに佐助・常盤住宅地である。

質問：大町地区は道路幅が狭く、路線バスが入らないため、乗り合いタクシーを導入予定であったが、実験段階で利用者が少なく、タクシー会社が採算をとれず、断念した経過がある。今後、どう対応していくのか。

部長：御指摘のとおり、大町地区は道路が狭隘でミニバスの導入ができず、平成二十年三月に乗り合いタクシーの実験を行ったが、事業の採算性を含めた運行結果から、導入は困難と考える。今後については、地域

にあった公共交通を考えていかねばならないと思っている。

質問：御所ヶ丘地区は、高齢化率が二十五%を超えており、過去に住民説明会を開き導入の検討をした経緯があると聞くが、その後どうなっているか。

部長：説明会等を行いながら意向調査を実施してきたが、導入希望者という状況ではない方が半々という状況である。今後も意向調査等を行うなど動向を伺いながら、地元の強い要望があれば検討したい。

質問：住友常盤住宅はバス路線から離れており、坂道のある住宅地である。当然、導入を望む声は多いと思うが、どうか。

部長：地元の方々とさまざまな手法を検討してきたが、バス停の位置等、難しい課題が山積しており、導入に至っていない状況である。今後も粘り強く地元住民と話し合いを重ね、ミニバス導入に向けた取り組みを進めていきたい。

【交通不便地域の対策】

質問：交通不便地域は鎌倉だけでなく、全国的な問題となっている。交通不便地域を解消するため、各自治体ではコミュニティバスの導入が始まっている。鎌倉市では多くの事業所でバス送迎

サービスを行っており、多くの送迎バスが交通空白地域を走っている。

本年四月から、関谷新町の特別老人ホーム・プライエムきしるでは、無料で地元住民も乗車できる仕組みができた。このように、事業所等の送迎バスを利用して、交通不便地域の問題解消ができるようになるかどうか。

部長：市民の生活の足として公共交通の路線バスの充実を図ることが基本的な考え方である。事業所等の送迎バスの利用については、問題を整理しながら、協力いただける企業があれば、積極的に協力要請していきたいと考えている。

（都市整備部）

まちづくりについて、次のような視点から質問が行われました。

《深沢のまちづくり》

【事業の進捗状況】

質問：事業の全般的な進捗状況について説明を願いたい。

部長：本年、地元の方々を中心メンバーとする深沢地区事業推進協議会からいただいた深沢地域の新しいまちづくりビジョンという提言と、平成十六年策定の深沢地域のまちづくり基本計画を土台に、現在、専門委員会、具体的な土地利用計画策定に向け取り組んでいる。来年度、この計画について権利者との合意形成を進めた後、関係機関との調整を行い、二十三年度に区画整理事業における都市計画決定、二十四年度に事業認可、二十五年度に仮換地と、スケジュールに遅れないよう進めていきたい。

【事業用地の暫定利用】

質問：市が取得した八・一ヘクタールの用地の暫定利用

の計画はどのようになっているのか。

部長：現在、市民のための施設として、多目的スポーツ広場やゲートボール場、公園、駐輪場などの利用を、また財政面から、住宅展示場、スポーツセンター、テニスクラブに用地を有償で貸し付けている。今後も引き続き、事業化までの間、暫定利用を進めていきたい。

【公共施設の整備】

質問：公共用地の正式な活用計画の進捗状況について説明願いたい。

部長：公共施設の全市的配置計画策定検討会で、深沢のまちづくりのテーマである**※ウェルネス**の実現と、市が抱える課題の解決という視点から検討している。

質問：保健医療福祉センターについては、現在どのような検討がされているか。

部長：鎌倉市保健医療対策審議会で、基本理念に市民主体の健康づくり、社会的活動と健康づくり、専門的なサポートの三点を掲げ、機能としては、健康チェック、専門家による支援・指導、健診などが受けられる機能、市民同士が情報交換や交流ができる機能の二つを掲げている。審議会では、来年六月の答申に向け、深沢のまちづくりのコンセプトに合った保健医療福祉センターのあり方について、引き続き検討していきたい。

質問：スポーツ施設の計画はあるのか。

部長：公共公益施設の導入機能の一つに掲げられている。

質問：深沢のまちづくりについて市長の決意を聞きたい。

市長：これからの五十年、百年の鎌倉の未来をつくる上で非常に重要な事業で、次世代、子供たちが本心に夢と希望を持てる鎌倉にするため、何としてもやり遂げなければならない事業と考えている。

【拠点整備部・経営企画部・健康福祉部】

《バリアフリーの取り組み》

質問：車いすでも行けるルートの確保はできないか。

部長：現在、砂浜からのスロープ設置や多目的トイレへの改修を進めている。材木座網干し場、由比が浜中央のトイレは高さを変えて設置しており、国道からのアクセスを考えていきたい。

【小町通り商店街】

質問：車いすでも店に入れるよう、市として支援策を考えているか。

部長：一律に同じ道路面にするのではなく、冠水のおそれがあるが、すぐにできることはあるか、商店会と意識づくりの機会をつくっていききたい。

（市民経済部）

【道路整備】

質問：御成交差点から扇ガ谷ガード下までの舗装、側溝ふたがけの予定を聞きたい。

部長：今年度は水道局から寿福寺前までと御成中学校入口交差点から裁許橋までの側溝のふたの改修を、来年度は鎌工会館ビル前から寿福寺前までの舗装改修と歩行空間のカラー化を、英勝寺から扇ガ谷ガード下までは二十三年度以降、順次実施したい。（都市整備部）

用語の解説

※印の用語について解説します。

オムニバスタウン計画

国が推奨する「オムニバスタウン構想」に基づくもので、マイカーに比べて人・まち・環境にやさしいバス交通を充実させることなどにより、自動車事故や渋滞等、まちが抱える交通問題の解決を図ろうとする計画のこと。



七里ガ浜地域を走るミニバス。現在、6路線のミニバスが市内を走っています。

ウェルネス

平成十六年策定の深沢地域のまちづくり基本計画において決定した事業テーマで、「人・都市・社会にとって非常に好ましい総合的な健康社会をめざす」ことを意味します。

福祉施設職員応援体制の覚書

災害時の消防隊の派遣、応急復旧活動に必要な人員や車両の派遣等の相互応援について取り決めた災害協定に加え、災害弱者である要援護高齢者や障害者の方への対応として、姉妹都市間での福祉専門職の相互支援が必要との認識から、社会福祉施設職員による相互支援を行うことについて確認した覚書のこと。